2019年度入学試験問題

国　　語

（試験時間　14：50〜15：50　60分）

1．解答用紙には，記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類があります。

2．解答は，必ず解答欄に記入およびマークしてください。解答欄以外への記入およびマークは無効となります。

3．解答は，HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し，訂正する場合は，プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に，マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。

4．解答用紙を折り曲げたり，汚したりしないでください。また，マーク解答用紙を記述解答用紙の下敷きに使用しないでください。

5．解答用紙には，必ず受験番号と氏名を記入およびマークしてください。

6．マーク解答用紙への受験番号の記入およびマークは，コンピュータ処理上非常に重要なので，誤記のないようにしてください。

7．一度記入したマークを修正する場合，しっかりと消してください。消し残しがあると，マーク読み取り装置が反応して解答が無効となることがあります。

一　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。（50点）

北米西海岸に暮らしたことのある人ならばおそらく誰もがよく知っていることであろうが、毎年、季節が訪れると、飛ぶ高さこそ異なるが数百種もの鳥たちがさまざまな距離を大陸棚に沿って南北に移動する。それらの種のひとつが、ミヤマシトドである。きわめて珍しいことに、ほかのほとんどの鳥と違ってこの種の鳥は、移動のあいだ七日間も目を覚ましたままでいられる。ここ五年にわたって、アメリカ合衆国国防総省は、この生物を研究するために莫大な予算を費やしている。

ミヤマシトドは、太平洋岸の環境での季節の周期から切り離されて、人体を持続と効率という機械モデルに組み込むために利用されているのである。歴史が示すように、戦争のための技術革新が社会に取り込まれていくことは必然であり、眠らない兵隊は、眠らない労働者ないし眠らない消費者の先駆者になるだろう。不眠薬は、製薬会社の強力な販売促進によって、まずライフスタイルの選択肢のひとつになり、ついには多くの人々にとって必需品となっていくことだろう。

連続的な労働と消費のための二四時間・週七日フルタイム（以下24／7と表記）の市場や地球規模のインフラストラクチャーは、すでにしばらく前から機能しているが、いまや人間主体は、いっそう徹底してそれらに適合するようにつくりかえられつつあるのだ。

24／7は、ルカーチらが二〇世紀初頭に特定した、個人の希望ないし計画が排除される、近代の空虚で均一な時間とは区別される。この新たな事態においては、時間が何か長期的な事業とつながっているとか、「進歩」や発展という空想に結びついているといった想定すらも、すっかり放棄されてしまう。

24／7とは、無関心の時間である。そのもとでは、人間の生のもろさはますます不適切なものになっていき、睡眠が必須でも不可避なものでもなくなっていく。労働に関して言えば、この語によって、限界も休息もなしに働きつづけるという理想がもっともらしく正常であるかのようになる。

(1) 24／7は、環境のカタストロフとも切り離すことができず、自らを維持するために際限なき消費や、終わりなき無駄遣いを声

高に唱え、生態系全体の基盤となる循環や季節を最後まで破壊し尽くしてしまう。

睡眠は、生産時間と流通と消費において計り知れないほどの損失をもたらし、まったく無用で本来的に受動的なものとされるため、24／7の世界の要求には常に適合しないだろう。睡眠に費やすわたしたちの人生の大部分は、シミュレートされた必需品の泥沼から逃れているため、現代資本主義の飽食にたいする公然たるブジョク[2]のひとつとして存続している。睡眠は、資本主義によってわたしたちから時間がうばい取られていくことにたいする断固とした妨害である。人間の生にとって見たところ削減できない必需品のほとんどすべて――飢え、乾き、性的欲望、近年は友情など――が、商品化されて金融化されたかたちでつくり直されているが、睡眠は、植民地化されたり抑制されたりできない人間の欲求や休止期間という理念を、利潤の巨大エンジンに突きつけるため、グローバルな現在において、不都合な例外や危険な位置にとどまりつづけている[3]。

もちろん、人々は眠りつづけるし、拡張しつづける大都市でさえ、相対的に無活動な夜の休止期間があることに変わりはない。にもかかわらず、睡眠はいまや、必要性や自然という概念から切り離された経験になっている。そのかわり、他の多くのものと同じく、道具的で生理学的に定義されることによってのみ、可変的だが管理できる機能として概念化されている。近年の研究によれば、メッセージやデータをチェックするために夜に一度ならず目を覚ます人の数が急増しているという。取るに足らない流行の言い回しに、機械に由来して使われるようになった「スリープモード」というのがある。低電力の状態でスタンバイ中の装置というこの考えは、睡眠に関するもっと広い感覚を、単に操作やアクセスが遅延され軽減された状態へとつくり直してしまう。こうした考えは、オン・オフの論理に取って代わり、したがって、もはや何ものも根本的に「オフ（休暇）」になることがなくなり、実際に休みの状態であるものはなくなってしまう。

一九世紀に、工場経営者たちは、欧州の産業化にともなって労働者を最大限に駆使したあげく、もっと効率的で長時間の生産を維持するのに必要な適度の休息時間を彼らに与えさえすれば、いっそう利益をあげることができると考えはじめた。ところが、二〇世紀後半の数十年から現代までのあいだに、合衆国や欧州における統制されカンワ[4]された資本主義の形態の崩壊によって、経済成長や利益に役立つものとしての休息や回復には、いかなる内的必然性もなくなってきた。人間の休息や再生のための時間

はいまや、現在の資本主義の構造内で可能であるためには、単にあまりにも高くつきすぎるのである。テレサ・ブレナンは「生の規制カンワ」という斬新な言い回しで、規制カンワ市場の一時的な作用と、その欲求に順応するのに必要な人間の本来的な身体的限界とのあいだに、激しい食い違いがあることを指摘している。

不眠は、生の消耗や資源の枯渇を加速させながら、生産・消費・廃棄をひっきりなしにもたらす状態である。そしていまや、不眠症は、グローバルに生じている他のさまざまな[5]ゴウダツの形態や社会的な崩壊と切り離すことができなくなっている。現代におけるわたしたちの個人的な欠乏として、また世界喪失の一般化された状態として、不眠症が持続している。

ところで、政治的アクティビズムが意味するのは、利用可能なツールや物質的リソースを創造的に用いることであるのは明らかだが、ツールそのものが贖(あがな)いの価値を内在するなどと想像するべきではない。レーニンやトロツキーや彼らの同志たちは、一九一七年に当時のあらゆるコミュニケーション技術を自在に用いたが、それらのツールを、歴史的な出来事の全配置を決定する特権的で神聖な要因にまでもちあげることはなかった。幾人かのサイバーアクティビストたちが、近年の政治運動や[6]ホウキにおいて、ソーシャル・メディアの役割を激賞しているのと違って。ひとたび[7]ネットワークになかば魔術的な能力が帰属され神秘化されるや、それは、弱者や抑圧された者たちのために自動的に利益をもたらすという、ポンジ・スキーム（不特定多数に出資を求める投資詐欺）の信念のようなものになってしまう。テクノロジーが平等主義的で力を与える本性を持つという神話が育まれてきたのには理由がある。アクティビストたちがすすんでインターネットの戦略のもとで自分たちを組織化しようとすること、ただそれだけで、グローバル秩序の警察組織を喜ばせることができる。そうすることでアクティビストたちは、現実の出会いが起こる生きた共同体や現場よりも、もっと容易に国家の監視や破壊工作や操作がなされるサイバースペースのなかに自発的に自らを投げ込んでいるのだ。

一九九〇年代の新自由主義の興隆にともなう管理形態は、その主観的な効果において、[8]共有され集団的に支えられていた諸関係の荒廃において、いっそう侵害的なものになった。24／7は待つことなき時間、オン・デマンドの即時性、他者の存在から孤立できるようになるという妄想を提示する。接近を含意する他人のための責任は、いまや、日々のルーチンやコンタクトの電子

的管理によってたやすく避けることができる。おそらく、もっと深刻なのは、直接民主主義の形式にとって本質的な、他人の声に耳を傾け、話す順番を待つという個人の忍耐と敬意の退化が24／7によってもたらされている、ということである。ブログを書くという現象は、多くの例のなかのひとつであるが、他の誰かを待ち、耳を傾けるという可能性を無視した、自閉的なおしゃべりの一方通行の勝利である。

待つことの問題は、24／7の資本主義と、活動と休止の [(9)] なパターンをもつ社会活動とが両立できないという大きな問題に結びついている。後者にはまた、共有や相互依存や協同に関わる社会的交換が含まれるだろう。これらすべての基盤には「順番がくる」というモデルがあり、主張することとモクダク[(10)]することとが交替する状態を必要とする。一九二〇年代にジョージ・ハーバート・ミードは、それなしではありえないだろうと思われる、人間社会を構成している諸要素を名づけることを試みた。ミードによればそれは、思いやり、助けになること、協同である。「病気だったり不運だったりして落ち込んだ他人を助けようとする根本的な態度は、人間の共同体における個人の構造にこそ存在するのだ」。ミードはまたこうも主張している。数千年にわたって、これらの価値は経済的交換の基盤だったのだ、と。ミードの著作は、その全面的な非歴史主義のために批判されているが、ここで彼が社会の協同の核を普遍化したことは、二一世紀初頭の資本主義が社会そのものといかに一致しないかを、よりはっきりと気づかせてくれる。これはまた、他者と自分自身への配慮を不可能にする現代のグローバルな病理として、ベルナール・スティグレールが診断した背景にも関連している。

わたしが前に示唆したように、睡眠は、知ってか知らずか、わたしたちが自らを他人のケアへとゆだねていくわずかに残された経験のひとつである。睡眠は孤独で私的なもののように思われるかもしれないが、相互支援や信頼という人間のあいだの網目から駆逐されてはいない――こうしたつながりの多くがどれだけ崩壊したかもしれないとしても。睡眠はまた、個体化からの周期的な解放である。人が日中に経験し統御した浅い主観性のゆるいもつれ合いが、夜に解きほぐれていく。非個体化のまどろみにおいて、眠る人は共通の世界に住み、24／7の実践という不幸な無と浪費から撤退するための共有の活動を演じている。睡眠は、搾取できないもので、他に比較できないものであるにもかかわらず、現存するグローバル秩序の外側には、まったく飛び

地がない。睡眠はつねに、目覚めの活動の流れに影響される多孔性のものだが、今日では、睡眠をむしばみ減退させる攻撃にたいして、これ以上に守るすべがない。こうした頽廃にもかかわらず、睡眠は、待つことや休止からなるわたしたちの生活における循環である。これは延期されたものが何であれ、その復旧の遅れや再開を肯定し、延期の必要性を肯定する。睡眠は、覚醒時に網目状に絡みついたあらゆる糸の「恒常的な連続性」からの放免、ないしは解放である。無活動や無用の状態に入って睡眠するためには、ネットワークやデバイスから [(11)] に離れる必要があるというのは、あまりに自明なことであるのは言うまでもない。睡眠は、わたしたちが所有したり、必要だと言われたりするものではなく、どこか他所へわたしたちを導いていく、時間のかたちである。

（ジョナサン・クレーリー著、岡田温司監訳、石谷治寛訳『24／7眠らない社会』による）

注　ルカーチ……ハンガリーの哲学者（一八八五～一九七一）。　テレサ・ブレナン……アメリカの社会学者（一九五二～二〇〇三）。　アクティビズム……直接的な行動主義。　ジョージ・ハーバート・ミード……アメリカの社会学者（一八六三～一九三一）。　ベルナール・スティグレール……フランスの哲学者（一九五二～）。

〔問一〕　傍線(2)(4)(5)(6)(10)のカタカナを漢字に改めなさい。（楷書で正確に書くこと）

〔問二〕 傍線(1)「24／7は、環境のカタストロフとも切り離すことができず」とあるが、その説明としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A　24／7の社会は、経済成長のために規制が削減されていくので、環境保護のための規制も削減され、破局へとつながる。

B　24／7の社会は、自然のリズムを無視した生産競争が、資源を抑制なくうばうこととなり、終局的な環境破壊へとつながる。

C　24／7の社会は、際限のない消費活動が四季に影響されない生産を生み、季節感ある伝統的生活環境の壊滅へとつながる。

D　24／7の社会は、睡眠や季節といった要素を排除しようとし、保護されてきた生態系の恒常性が崩れて破滅へとつながる。

E　24／7の社会は、終わりなき無駄遣いが際限のない廃棄物を生み出すことになり、自然環境の壊滅的な破壊へとつながる。

〔問三〕 傍線(3)「不都合な例外や危険な位置にとどまりつづけている」とあるが、その理由としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A 睡眠は他の必需品と異なり、人間に必要なリズムを顕在化させるため、ボーダレスに侵食する生産、流通、消費の休みなき持続を妨げてしまうから。

B 睡眠は個人の多様性が担保される最後の砦（とりで）である点で、世界を覆い尽くそうとする近代の空虚で均一な時間にとって植民地化しえない飛び地であるから。

C 睡眠はネットワークへのアクセスを遅延させ軽減させる例外的要因であり、生産効率を落とす点で、利潤の巨大エンジンを脅かす存在となっているから。

D 飢えや渇き、友情などの欲求が商品化されていながら、睡眠だけは今後も不眠薬の商品化が困難であり、利潤の巨大エンジンのコントロールがきかないから。

E 連続的長時間生産をこなす日々のルーチンのなかで、睡眠だけは例外的休止を余儀なくさせ、生産性向上には必要でありながらコストを押し上げてしまうから。

〔問四〕 傍線(7)「ネットワークになかば魔術的な能力が帰属され神秘化される」とあるが、「魔術的な能力」の属性の説明としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A ネットワークは、人々を連帯させることだけで、弱い他者を救済することができるような力を有している。

B ネットワークは、格差を解消して政治的孤立から救済する道具として、管理社会に風穴をあける力を有している。

C ネットワークは、連帯によって、政治活動の中で不可避的に犯さざるをえない個々人の罪を償う力を有している。

D ネットワークは、ロシアの人民たちを一つに団結させ社会主義を実現させたとされる、ツールとしての力を有している。

E ネットワークは、個々人に平等に開かれているため、ロシア革命の指導者が崇拝したプロパガンダの力を有している。

〔問五〕 傍線(8)「共有され集団的に支えられていた諸関係の荒廃」とあるが、その説明としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A 必需品を入手するために維持されてきた相互支援的なネットワークが、商品をオン・デマンドで即時的に入手できるようになったため、その必要性が薄れてしまった。

B 自身への利益は生まない他者への責任感によって維持されてきたネットワークが、他者への配慮を不可能とする現代的病理によって、危ういものとなってしまった。

C 直接民主主義の根幹にある多数意見の尊重によって維持されてきたネットワークが、他者の存在から孤立できるほどのインフラ整備により機能しなくなってしまった。

D 他者への敬意を持ち、忍耐することで維持されてきたネットワークが、自己の主張に性急な余り、相互依存や協同と相容れない傾向の進展により、衰亡してしまった。

E 病者や不運な他者を助けようとする協同によって維持されてきたネットワークが、他者に対し非抑制的なブログに象徴される社会的自閉傾向によって危機に瀕(ひん)してしまった。

〔問六〕 空欄(9)(11)には同じ語句が入る。もっとも適当な三字の語句を、本文中から探し出して答えなさい。

〔問七〕 次の文ア～オのうち、本文の趣旨と合致しているものに対してはA、合致していないものに対してはBの符号で答えなさい。

ア　サイバースペースでは意見を共有する個々人が共同体を形成し、現実の行動へと展開することで、既存の政治制度を揺るがせている。

イ　テクノロジーの進化によって環境への適合がせまられているのは未曽有（みぞう）の事態であり、変化への不適応が不眠となって顕在化している。

ウ　24／7の社会は、その「恒常的な連続性」によって、社会の進歩や発展を加速させる一方で、個々人の希望は犠牲にされてしまっている。

エ　ソーシャル・ネットワークは管理の容易な対象を生み出したが、眠りは管理の拒絶をともない、共有された活動を可能とするものである。

オ　近代の工場経営者が睡眠や休息を新たな社会へと適合させたように、24／7の社会においても、睡眠を効率的に時代へ適合させることが必要である。

二　次の文章は芥川龍之介の小説『地獄変』を論じたものである。この小説は説話集『宇治拾遺物語』などを題材に、画家の良秀が権力者に地獄変の屏風絵を命じられ、娘を犠牲にして見事な絵を完成させて称賛を得たものの、自死するという内容である。この文章を読んで、後の問に答えなさい。（20点）

近代の芸術家は芸術に殉ずれば殉ずるほど道化師的存在にならざるをえない運命にあるといえる。それを見事に描き出したのが芥川龍之介の『地獄変』である。いいかえれば、西欧の近代の芸術思想が生み出した芸術家像は、極言すれば二つのそれに還元されるということである。ひとつは「芸術」という神に殉ずる殉教者的芸術家、ないしは「芸術」という神の神聖価値を求めて絶えざる探求へ没入する求道者的芸術家像である。もうひとつは、すでに前者のなかに内在的に含まれている要因であるが、芸術家自身の内面における葛藤、闘争がそのエネルギーを自己の外に向けたときに具体的なかたちとなって現われる芸術家像、つまり反逆者的芸術家像ないしは道化的芸術家像である。芥川の『地獄変』の画家良秀はまさにこの後者の反逆者的な芸術家、道化としての芸術家像を比類のないかたちで具体化させた作品といえる。この作品は自分の娘までをも作品の完成のために犠牲にする芸術至上主義の思想の表現として解釈されてきていたが、それはかなり皮相な見方といえる。たしかに「人生はボードレールの一行にしかず」という言葉を残している芥川の芸術観やこの『地獄変』の画家良秀の振舞いを芸術至上主義といえないことはないが、芥川の西欧芸術思想の理解はそれほど表層的なものではなかった。

芥川は小説のあり様やあり方について谷崎潤一郎と、かの有名な「話らしい話のある小説か、話らしい話のない小説か」をめぐる論争をおこなったとき、谷崎の話らしい話のある小説の主張、つまり［(1)］が明確にある小説の主張に対して、芥川は話らしい話のない小説、つまり場面や挿話だけで独立しうる小説の擁護に回っているが、これはある意味で西欧近代の芸術思想へのアンチテーゼを含んだ実に深い洞察であったといえるものである。この作品には展開らしい展開、筋立てらしい筋立てはないというべきか、それらはほとんど問題ではなく、良秀の娘が燃えさかる火のなかで地獄の責め苦に悶え苦しむような「場面」がクライマックスとなる作品である。

芥川がこの『地獄変』のなかで描き出した芸術家像の価値は、すでに触れたように西欧近代の芸術至上主義の芸術家像を日本の風土に現前させたということではない。西欧近代の芸術至上主義とは、芸術家がもはや過去の職人的職能人ではなく、みずからが新しい価値の創造者として、世俗価値や社会規範の上に立つ存在者であるという極めて楽天的で素朴な信念に捉われ、その信念に殉じようとすることである。その意味では、おのれの内なる神に殉じようとする殉教者であるか、また歴史がいまだにその価値を発見していない創出されるべき価値の探究者という新しいタイプの「求道者」[2]ということである。しかし芥川の描く画家良秀はそんな芸術至上主義者ではない。

『地獄変』の画家良秀像の価値は「猿のような芸術家」というところにある。芸術といってもよいし、あるいは芸といってもよいが、その本質は「ミメーシス」、つまり「猿真似」のなかにある。別ないいかたをすれば、「芸」とは猿真似を徹底的に追求したさきで突然「芸術」に変貌する。猿真似とは自然模倣であってもよいし、先人の手本の模倣であってもよいのであるが、「技」や「芸」は絶えざる模倣の持続によってのみ、単純な模倣、つまり猿真似を脱し、一種の芸術の領域に達するものである。たとえば、世阿弥は父観阿弥から徹底した「ものまねび」を命じられ、その「ものまねび」のさきに幽玄という模倣的な芸を超越した芸術世界を発見したのである。いいかえれば父観阿弥の「猿楽」の世界から「申楽」を経て「能楽」の世界へ達したのである。

世阿弥の能楽とは父観阿弥にあっては娯楽としての遍歴放浪の「猿楽」を儀式としての「神楽」とすることで、つまり神の字の偏を取って「申」楽とすることで、それを「能」にまで高めたものだったのである。このプロセスは画家良秀が「猿のような絵師」から「獅子王のような芸術家」へ変貌するプロセス、つまりものまねびの絵師から創造的な芸術家へ変貌するプロセスと重なりあう。良秀が地獄変の屏風絵によって世間の尊敬を受ける芸術家になったということは、社会的な成功といえるものであるが、良秀自身の幸福や満足を意味するものではない。世阿弥が能の大成者として尊敬されたことが彼の幸福や満足を意味しなかったように、画家良秀の成功も別の新たな「芸術家の苦悩」[3]を生み出さざるをえない。技と芸に対する精進と社会的関心への迎合の間にある「猿真似」とは、それ自体がひとつの人間存在の危機を意味するものである。それはおのれを虚しくして、制度

への屈従と自己解放のための社会への反逆を同時に持続させていくことだからである。

また社会的に成功した芸術家も自己の創出した価値に殉ずることで、社会的な権力や世俗的、伝統的権威と絶えざる対立、対決を引き受けつづけるという苦悩を背負い込むことになる。世阿弥は能楽の大成者となったがゆえに将軍足利義教(あしかがよしのり)によって佐渡島へ流されることになる。芥川龍之介も世俗的な成功者となったがゆえに自死の道を選んでしまう。芥川と対比させられることの多かった谷崎潤一郎のような日本的な伝統芸術思想の体現者と思われる者、さらにいえば彼と並んで日本の作家のなかで西欧世界によく知られるようになった川端康成、三島由紀夫などが西欧近代の芸術思想の忠実な信奉者となり、芥川や太宰治のような一見西欧型の芸術家とみえる者たちが、「猿のような芸術家」の悲哀と成功した芸術家の苦悩の両方に追いつめられていかざるをえなかったことは、なにか象徴的な意味を感じさせる。谷崎を除いて、芥川、太宰、三島、川端が皆自死を選んだことも同様である。

『地獄変』の画家良秀は権威を権威とも思わない。なぜなら権威の虚構性を本物の芸術家として本能的に見抜いているからである。また彼は権力を恐れない。なぜなら権威を伴わない生の粗暴な権力ならすぐにもその権力を失うであろうし、権威をみずからの内にとり込んだ権威主義的な権力なら、それもみずからの擬制のなかで単なる儀式的権力に堕してしまったものにすぎないことを知っているからである。そこで彼は政治的権力にも伝統的な権威にも服することができず、権力や権威に反逆し、反撥(はんぱつ)する道をみずから意図せずとも選んでしまうことになる。たしかに芸術家は外に向けての異議提出をエネルギーにもするが、もっと厄介なのはその異議提出が外に向かうだけでなく、内に向けられ、絶えずするどく自分自身を突き刺し続けるということである。作中人物の画家良秀は作者芥川とその意味で同一である。世阿弥や千利休(せんのりきゅう)のように権力によって弾(はじ)き飛ばされてしまうか、芥川のように「漠たる不安」という内なる自己との戦いによって自死を選ぶか、いずれにせよ芸術家とは厄介な存在である。社会の側から見ても芸術家とは厄介な存在であるが、(4)芸術家から見れば社会も自己自身も両者が厄介な存在なのである。

（松宮秀治『芸術崇拝の思想』による）

注　ボードレール……フランスの詩人・評論家（一八二一～一八六七）。　ミメーシス……「模倣」を意味するギリシア語。「猿楽」・「申楽」……どちらも「能楽」の旧称。なお「申楽」は世阿弥の芸談集のなかにある言葉。　擬制……本質は違っていても、そうであるとみなすこと。

〔問一〕　空欄(1)に入れるのにもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A　テーマとしての因果応報
B　キャラクターとしての虚構性
C　プロットとしての意外性
D　ストーリーとしての起承転結
E　フィクションとしての独創性

〔問二〕　傍線(2)「新しいタイプの「求道者」」とあるが、その説明としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A　従来の社会規範や世俗価値とは無関係に、自らが信じる芸術的価値の世界に生きる者
B　職人的職能人としてではなく、世俗価値や社会規範と調和する芸術的価値を探求する者
C　自らが信じる芸術的価値によって、既成の世俗価値や社会規範を超越しようとする者
D　職人的な価値重視のなかで、自らが信奉する西欧近代の芸術家像の定着を目ざす者
E　伝統を刷新することで、形骸化した芸術規範に対して新しい芸術を生み出そうとする者

〔問三〕 傍線(3)「芸術家の苦悩」とあるが、その説明としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A 「猿真似」での技や芸への精進の結果、社会的成功を手に入れても芸術家として堕落したのではないかと悩むこと。

B 「猿真似」で技や芸を究める事と、人間的な幸福や安定を手に入れることは両立できないのではないかと悩むこと。

C 「猿真似」によって人間としての幸福や満足を捨て、社会的成功を得ても人間としては不幸になるのではと悩むこと。

D 「猿真似」によって社会的承認を得たあとも、芸術家として社会的権力との対立が起こるのではないかと悩むこと。

E 「猿真似」で芸術的成功を得た者は、それに安住せずに自己解放のための社会的反逆が続くことになると悩むこと。

〔問四〕 傍線(4)「芸術家から見れば社会も自己自身も両者が厄介な存在なのである」とあるが、「自己自身」が「厄介」なのはなぜか。その説明としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A 芸術家は権威も権力も虚構に過ぎないことを見抜いているので、社会への異議提出はそのまま自己にも向かい、自己自身をも疑わざるを得なくなるから。

B 芸術家は権威を伴わない粗暴な権力はたちどころにその力を失うことを見抜いているので、絶えず政治的権力との避けられない対決を続けることになるから。

C 芸術家は政治的権力も伝統的権威も反逆すべき対象であることを見抜いているので、自己自身の芸術が社会的成功を得てもそれを是とすることは出来なくなるから。

D 芸術家は権威も権力も普遍的なものではなく一時的なものに過ぎないことを見抜いているので、後世にまで残る作品を創造することは不可能と知っているから。

E 芸術家は本能的に権威主義的な権力が形だけの虚構であることを見抜いているので、権力に承認された自己自身の芸術作品にも自信を持つことが出来なくなるから。

〔問五〕 この文章の趣旨としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A 西欧近代の芸術家は世俗的価値や社会的規範には反逆することが出来たが、神への信仰だけは捨てることが出来なかった。

B 世阿弥の能楽における「芸」は、絶えざる模倣の持続によって単なる模倣から芸術の領域へと至ることが出来た。

C 世阿弥は父観阿弥から「ものまねび」を命じられ、それを持続的に追求したことによって模倣的な幽玄の道の大成者となった。

D 日本の芥川や太宰、三島、川端などの作家は、西欧近代の芸術至上主義に殉じようとしたゆえに自死の道を選んだ。

E 世阿弥や千利休はそれぞれの道で権威者となったが、そのような自己自身に対して懐疑的にならざるを得なかった。

三　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。（30点）

（五月）十七日、天竜川を渡る。例の洪水に堤崩れて、常の道はゆきかひ絶えぬれば、池田の宿のこなたより、左のかた、田中の道をつたひて行くなりけり。二里ばかりの回り道なり。この道より、富士のいただきかすかに見ゆ。うれしきこと限りなし。

うれしさの心まどひか白雲の浮きても見ゆる富士の遠山

さて、かの堤崩れて、俣川となり、そこばくの田地つぶれたりとか。今もみなぎる波恐ろしきまでにて、この流れも五六町ばかり舟渡しとなりて、岸に着けば、やがて常の渡し場なり。

富士のねに親しかるべき名なれども(1)影だに見えぬ天の中川

見附の宿に来てもなほ見えず。

(2)　をたのみて来つるくやしさもいつかは晴れん富士の芝山

今宵は袋井に泊まる。ここの本陣太田屋なにがしが家に、賀茂の翁の「竹にかかれる雪を見るかな」と詠まれし詠草の一軸を掛けたり。こは(3)正しきものと見ゆ。

十八日、日坂の泊まりなり。片岡屋なにがしが母、今は(4)さだ過ぎにたれど、(5)けしうはあらぬが、(6)ゆくりなく見え来て、くだものなどおくり、ねもごろに言ふ。「若きほどより、みづからは歌も詠みはべらねど、人びとの書きたるを集めて楽しみはべれば、はたとせばかりの昔より御名は聞き及びはべりて」など、したはしげに言ふ。「かう騒がしきをりからなれば、なにごとも心にまかせず。かへさには必ず」など(7)言ひちぎりて別れぬ。

十九日、宿をたちて間近く阿波々が嶽を望む。

(8)動くべきけしきも今朝は見えぬかな阿波々が嶽にかかる白雲

ほどなく小夜の中山にかかりて、

かへり見る谷のあなたの松のうへに消え残りたる有明の月

この山、思ひのほかに高くて、並木の松かげを行くほど景色ことなり。峠に茶屋多くあり、しばしいこふ。西行が「年たけて」[9]と言ひしは、世をすてし後にして、飛行自在の身にてすら「思ひきや」[10]と歌へり。ましてやおのれはなにとかいはむ。

（八田知紀『白雲日記』による）

注　池田の宿……遠江国の地名。天竜川の渡船場があったところ。　俣川……本流から分かれていく川。
天の中川……天竜川のこと。　賀茂の翁……賀茂真淵。
見附・袋井……遠江国の地名。いずれも東海道の宿駅のひとつ。
竹にかかれる雪を見るかな……冬ごもる庵のとぼそをまれに明けて竹にかかれる雪を見るかな（『賀茂翁歌集』）。
阿波々が嶽……粟が岳のこと。山頂に阿波々神社がある。
飛行自在……出家して自由に空を飛べる法力を得たであろうと戯れた。

〔問一〕　傍線(1)「影だに見えぬ」とあるが、これは何の影すら見えないというのか。左の中からひとつ選び、符号で答えなさい。

A　雲　　B　竜　　C　天　　D　富士山　　E　中川

〔問二〕　空欄(2)にあてはまる語を、本文を参照して左の中からひとつ選び、符号で答えなさい。

A　馬の背　　B　白雲　　C　竹杖　　D　またの日　　E　里の名

〔問三〕 傍線(3)「正しきもの」とはどういう意味か。左の中からひとつ選び、符号で答えなさい。

A 季節にふさわしい歌題
B 和歌の伝統に忠実な歌
C 国学の正統を歌う主題
D 真淵本人による自筆の書
E 作法に適っている掛け方

〔問四〕 傍線(4)「さだ過ぎにたれど」・(5)「けしう」・(6)「ゆくりなく」の意味としてもっとも適当なものを、それぞれ左の各群の中から選び、符号で答えなさい。

(4)「さだ過ぎにたれど」

A 高齢ではあるが
B 礼を失しているが
C 隠居の身分であるが
D 時機にふさわしくないが

(5)「けしう」

A 暗く
B みにくく
C 背が低く
D 貧乏くさく

(6)「ゆくりなく」

A　あわてて
B　のんびりと
C　思いがけず
D　抜け目なく

〔問五〕傍線(7)「言ひちぎりて」とあるが、何を約束したのか。もっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A　帰りには必ずゆっくり果物を御馳走になること
B　落ち着いたら必ず歌の詠み方を教えること
C　帰りには必ず立ち寄って歌を贈ること
D　必ず帰途にもこの宿を利用すること
E　後で必ず返歌を届けること

〔問六〕 傍線(8)「動くべきけしきも今朝は見えぬかな阿波々が嶽にかかる白雲」の歌についての説明として、もっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A　ア段の音を多く含む山の名の厳かな響きに注目し、かつ白雲が動きそうもないことを言うことで、直接表現しない山の高さと山容の雄大さを聞き手に想像させる技巧的な歌である。

B　山が動くはずはないが、ことさらそう表現することにより、阿波々が嶽の山容の雄大さに感じ入っている気持ちを、堂々とした歌いぶりで表現した歌である。

C　「阿波々が嶽」の「阿波々」には「あはは」という笑い声が掛けられており、山が動かないという当たり前のことを、したり顔に表現する歌人の癖を茶化している滑稽な歌である。

D　山の名に小さいものの例えとして用いられる「粟(あわ)」を掛けることによって、動きやすい小粒のものと動きがたいものとの取り合わせに興じた機知的な歌である。

E　阿波々が嶽にかかっている白雲が動きそうもないことを指摘することによって、より高い富士山も雲に覆われていて今日も見えないだろうという残念な気持ちを表現している。

〔問七〕 傍線(9)「年たけて」・(10)「思ひきや」は西行の歌の一部である。次の空欄ア・イに入る句を、左のA～Eの中からそれぞれ選び、歌を完成させなさい。

年たけて［ア］思ひきや［イ］小夜の中山

A　さすがに惜しき
B　命なりけり
C　旅のそらにて
D　また越ゆべしと
E　かかる白雲